

# 中学校音楽科における歌唱・合唱教材選択に関する研究

—学習者の歌唱曲に対する受容の実態を視点として—

立石裕子

(本講座大学院博士課程前期在学)

## I. はじめに

歌唱活動は、音楽科の表現領域の重要な活動の1つである。その教育的意義は、第1に自分の声を使い、いつでも気軽に行える音楽の表現方法であり、学習者の日常生活に還元しやすいこと、第2に皆が同時に行える活動として、集団形成の促進に有効であること、にある。これらのことから、歌唱活動は音楽科の授業のみならず、卒業式、入学式といった儀式的行事や文化祭、学園祭といった学芸的行事に取り入れられる機会も多い。しかし、学年が進むごとに声を出さなくなる学習者が増加する、また、クラス単位、全校単位と人数が多くなるにつれ、ますますその傾向が強くなる、などの実態が、音楽教育関係の雑誌においてしばしば取り上げられている。これらの課題をクリアし、学習者が意欲的に歌唱活動に取り組めるようにするための具体的なアプローチとして、学習者が意欲的に取り組める教材の選択、学習者同士の親和性を図るためのグループ活動の導入、声を出すことへの抵抗を取り除くことのできる発声指導の導入、などが重要である。特に、平成10年版中学校学習指導要領音楽科での授業時数の削減の影響を考慮すると、学習者が意欲をもって取り組める教材の選択の重要性が高まっている。

また、音楽科の学習内容を規定している中学校学習指導要領音楽科の歌唱活動に関する「内容」の事項では、改訂のたびに学習者が自ら音楽を感じ取り、表現を工夫する活動が強調されている。それに伴って、学習指導要領の教材選択の「基準」では、改訂のたびに幅広いジャンルの歌唱曲を取り扱うことが強調されている。そのような学習指導要領の変遷を背景として、現行の教科書ではさまざまなジャンルの歌唱教材曲が掲載されている。このことから、現在の中学校音楽科の歌唱活動では、さまざまなジャンルから教材選択が行われる機会が増えているといえる。しかし、このこととは別に、音楽科の論理に基づいて選択されたさまざまな教材について、学習者は学習者の論理に基づいて反応し、評価を下す。そして、その反応や評価は、歌唱曲のジャンルによってさまざまであるように思われるし、学習者の水準や特性によっても異なるように思われる。換言すれば、学習者の受容の水準が高いジャンルの歌唱曲もあれば、受容の水準が低いジャンルの歌唱曲もあるということになる。音楽科教育において効果的な教授＝学習活動を構築するためには、教科の論理によって選択された多様な教材が、学習者にどのような水準で受容されるものであるかを、あらかじめ把握しておくことが望ましいと考える。

したがって、本研究は、中学生を対象とした質問紙および聴取調査を行い、学習者の歌唱曲に対する受容の水準を明らかにすることで、中学校音楽科の授業において学習者が意欲的に歌唱活動に参加できる、より効果的な教材選択の方法を検討する。

## II. 調査の目的と方法

### 1. 調査の目的

調査の目的は以下の3点である。

- (1) 学習者の歌唱活動に対する態度と意欲およびその要因を、授業で積極的に歌っている学習者と積極的に歌っていない学習者とを比較することによって明らかにすること。
- (2) 7つのジャンルの歌唱曲（以下、聴取曲とする）を聴取した後の学習者の好みと印象などを測定し、歌唱曲に対する受容の水準を明らかにすること。
- (3) 授業で積極的に歌っている学習者と積極的に歌っていない学習者の聴取曲に対する好みと印象などの受容の水準の相違について検討すること。

## 2. 調査の方法

### (1) 質問紙の作成

歌唱活動に対する学習者の態度と意欲およびその要因を測定するための質問紙1、授業で歌う曲に対する好みと印象などを測定するための質問紙2、の2種類の質問紙を作成した。歌唱活動に対する態度と意欲およびその要因を測定するための質問項目は、渡部(2004)<sup>1)</sup>が用いた中学生の歌唱活動に関する5段階評定尺度の一部を改訂して用いた。歌唱曲に対する印象に関する項目は、石井(1988)<sup>2)</sup>によって採用された46の反対語対、および野波、川原(1977)<sup>3)</sup>によって作成された評価尺度から選択して用いた。調査に用いた質問紙1および質問紙2を文末に示した。

### (2) 調査に用いた歌唱曲

調査で提示する曲数は、調査時間や学習者の集中力を考慮し、計7曲とした。聴取曲の選定にあたっては、特に教科書への掲載率の高い、合唱曲、旧共通教材、外国曲、日本民謡、および日本のポピュラーソングの5ジャンルを対象とした。さらに、外国曲では、世界の民謡、英語のポピュラーソング、および芸術歌曲を選定の対象とした。続いて、各ジャンルから1曲ずつ(外国曲は3曲)選定し、聴取曲とした。以下に、ジャンル名、曲名、作詞(訳詞)者/作曲者を記す。

- ①世界の民謡：「O sole mio」、カップロ/カプア
- ②旧共通教材：「椰子の実」、島崎藤村/大中寅二
- ③英語のポピュラーソング：「Sound of Silence」、サイモン&ガーファンクル
- ④合唱曲：「春に」、谷川俊太郎/木下牧子
- ⑤日本民謡：「かりぼし切り歌」、宮崎県民謡
- ⑥日本のポピュラーソング：「世界に一つだけの花」、槇原敬之
- ⑦芸術歌曲：「菩提樹」、近藤朔風/シューベルト

なお、調査では曲を提示する際の順序効果を低減させるために、提示順序を学年ごとに入れかえて行った。また、①と③の曲については原語を用いた音源を、⑦の曲については日本語訳を用いた音源を提示した。

### (3) 調査の手続き

調査は、2004年に広島県内の中学校3校で総計420名を対象として行われた。調査期日と調査対象の詳細を以下に示す。

- ・A中学校：第1学年23名、第2学年23名、第3学年29名、計75名  
(調査期日) 10月25日～10月27日
- ・B中学校：第1学年40名、第2学年38名、第3学年40名、計118名  
(調査期日) 11月18日～12月8日
- ・C中学校：第1学年73名、第2学年68名、第3学年86名、計227名  
(調査期日) 12月8日～1月13日

調査は、それぞれの学校の音楽室で、1学級ごとに行われた。調査時間は40分～50分であった。まず、学習者に質問紙1を配布し、記入に関する説明を行った後に、記入を求めた。次に、学習者に質問紙2

- 
- 1) 渡部夕子「中学生の歌唱活動に関する一考察—音楽科授業、合唱コンクール、カラオケの比較を通して—」『広島大学教育学部卒業論文』2004.
  - 2) 石井信生「中学生の享受体験についての実験的研究Ⅰ—音楽享受における感じの言語化を通して—」『広島女子大学家政学部紀要』第24号、1988(a)、pp.81-88.  
石井信生「中学生の享受体験についての実験的研究Ⅱ—音楽享受におけるあらわでない反応行動の因子構造を通して—」『広島女子大学家政学部紀要』第24号、1988(b)、pp.89-96.  
石井信生「中学生の享受体験についての実験的研究Ⅲ—音楽享受における情動的意味体系を通して—」『広島女子大学家政学部紀要』第24号、1988(c)、pp.97-104.
  - 3) 野波浩、川原健彦「音楽教育研究における実験的研究(Ⅱ)—享受体験におけるイメージの言語化に関する分析—」『広島大学教育学部紀要第4部』26、1977、pp.75-85.

(計7枚綴り)を配布した。聴取調査に関する説明を行った後に、それぞれの曲の冒頭1分30秒を提示した。その直後に、学習者に対して1曲につき1枚ずつ質問紙2に記入を求めた。この過程を7曲分を行った。

### Ⅲ. 調査の結果

#### 1. 歌唱活動に対する学習者の態度と意欲およびその要因

質問紙1-I-(2)歌唱活動に対する学習者の態度と意欲の要因に関する項目の全データに基づいて因子分析(主因子解法、バリマックス回転)を行った。2因子解から4因子解までを検討した結果、4因子解が最もよく解釈できた(表1.1)。抽出したそれぞれの因子の尺度の内容から、第I因子を「気分・感情の因子」、第II因子を「学習の因子」、第III因子を「自己評価の因子」、第IV因子を「雰囲気因子」と命名した。以上の4因子を「歌唱活動に対する態度と意欲の要因に関する因子」とした。

表1.1 歌唱活動に対する態度と意欲の要因に関する因子分析

項目番号	尺 度	FACTOR 1	FACTOR 2	FACTOR 3	FACTOR 4
2	楽しいから	0.81829	0.23750	0.15482	0.07820
1	歌うのが好きだから	0.80590	0.20003	0.26947	0.03428
7	気分がすっきりするから	0.78689	0.11705	0.22161	0.20680
13	みんなで歌うのが好きだから	0.69122	0.26155	0.11042	0.25393
10	歌がうまくなりたから	0.63467	0.49048	0.09633	0.07553
14	感動できるから	0.58958	0.54635	0.06082	-0.02758
3	勉強になるから	0.22389	0.80487	0.04115	0.19097
5	歌い方がわかるようになるから	0.34478	0.60184	0.23945	0.26660
12	人前で歌うのは平気だから	0.26375	-0.06398	0.79773	-0.04101
4	自分の声に自信があるから	0.17975	0.55581	0.56482	-0.03724
9	歌う曲はどんな高い音でも出せるから	0.28158	0.34136	0.52909	0.02861
6	みんなが歌っているから	0.18597	0.09476	-0.13018	0.81753
8	歌いやすい雰囲気だから	0.54266	0.10032	0.12025	0.54666
11	普段と同じ声で歌えるから	-0.07897	0.22133	0.52331	0.54184

続いて、積極的に歌っている学習者と積極的に歌っていない学習者ごとに<sup>4)</sup>、「歌唱活動に対する態度と意欲の要因に関する因子」の平均値を算出した(表1.2)。その結果、全ての因子において積極的に歌っている学習者の平均値の方が積極的に歌っていない学習者の平均値よりも有意に高かった。特に、積極的に歌っている学習者の第I因子(気分・感情)の平均値が、全ての因子中で最も高かった。したがって、「楽しい、歌うのが好き、気分がすっきりする、うまくなりたから」といった学習者の肯定的な気分や感情が、歌唱活動への積極的な態度や意欲の要因となっているといえる。一方、積極的に歌っていない学習者は、全ての因子で3を下回った。特に、第III因子(自己評価)の平均値が、全ての因子中で最も低かった。この第III因子(自己評価)の平均値は、歌っている学習者でも4因子中で最も低かった。このことから、「人前で歌うのは恥ずかしい、自分の声に自信がない、曲の音が高く(低く)て歌いづらい」といった自己評価に関する悩みを抱えている学習者は多く、特に授業で積極的に歌わない学習者ではその傾向が強いことが示唆された。

4) 「質問紙1-質問I-(1)あなたはふだんの授業で歌う時に、積極的に歌っていますか?」に対して、「はい」と回答した学習者は268名(65%)、「いいえ」と回答した学習者は143名(35%)であった。

表1.2 学習者の歌唱活動に対する態度と意欲の要因に関する因子の平均値

	第I因子 (気分・感情)	第II因子 (学習)	第III因子 (自己評価)	第IV因子 (雰囲気)
歌っている学習者	3.92	3.42	2.76	3.25
歌っていない学習者	2.69	2.49	2.09	2.65
平均値の差	1.23**	0.93**	0.67**	0.6**

\*\*p<0.01

## 2. 学習者の聴取曲に対する受容の水準

聴取曲に対する好みと印象を検討した。まず、質問紙2-(8)聴取曲に対する印象に関する項目の曲ごとのデータに基づいて因子分析(主因子解法、バリマックス回転)を行った。曲ごとに、2因子解から4因子解までを検討した結果、全ての曲においてそれぞれ4因子解が最もよく解釈できた。7曲×4因子を検討し、7曲に共通する因子を決定した。決定した各因子内の尺度は、各曲に共通に含まれている度合いが高く、かつ因子負荷量の高いものを採用した(表2)。

各因子の尺度の内容から、第I因子を「力動性の因子」、第II因子を「親和性の因子」、第III因子を「明暗性の因子」、第IV因子を「難易性の因子」と命名した。以上の4因子を「聴取曲に対する印象の因子」として、7曲の歌唱曲に対する印象を検討した。

表2 聴取曲に対する印象の因子

表2.1 第I因子 (力動性の因子)

項目番号	尺 度	楽曲数
2	急いだ - ゆっくりした	4
7	はやい - 遅い	4
3	あらっばい - おとなしい	4
5	さわがしい - 静かな	4
14	力強い - 弱々しい	4

表2.2 第II因子 (親和性の因子)

項目番号	尺 度	楽曲数
9	親しみやすい - 親しみにくい	4
8	かっこいい - かっこわるい	4
11	ふつうの - 変な	4
6	おもしろい - つまらない	4

表2.3 第III因子 (明暗性の因子)

項目番号	尺 度	楽曲数
1	明るい - 暗い	6
13	楽しい - 悲しい	5
12	新しい - 古い	5

表2.4 第IV因子 (難易性の因子)

項目番号	尺 度	楽曲数
4	難しい - 易しい	6
10	複雑な - 簡単な	5

### (1) 学習者の聴取曲に対する好み

聴取曲に対する学習者の好みを測定するための項目、「(5) この曲は好きですか、嫌いですか」の平均値が高かったジャンルは、⑥日本のポピュラーソング、③英語のポピュラーソング、であり、平均値が低かったジャンルは、⑤日本民謡、⑦芸術歌曲、であった(表3.1)。続いて、「(7) この曲を、音楽の授業で歌ってみたいですか」の項目に、「はい」と回答した学習者の比率が高かったのは、⑥日本のポピュラーソング、③英語のポピュラーソング、④合唱曲、であった。一方、「はい」と回答した学習者の比率が低かったのは、⑦芸術歌曲、⑤日本民謡、であった(表3.2)。

以上の結果から、学習者は好みの高い曲ほど授業で歌ってみたいと考えていることが示唆された。

表3.1 聴取曲に対する好みの平均値

聴取曲	N	M (SD)
①世界の民謡「O sole mio」	399	2.71(1.13)
②旧共通教材「椰子の実」	410	2.59(1.03)
③英語のポピュラーソング「The Sound of Silence」	403	3.67(1.03)
④合唱曲「春に」	395	3.10(1.12)
⑤日本民謡「かりぼし切り歌」	402	2.07(0.98)
⑥日本のポピュラーソング「世界に一つだけの花」	404	4.08(1.06)
⑦芸術歌曲「菩提樹」	390	2.19(0.94)

(5:非常に好き - 1:非常に嫌い)

表3.2 聴取曲を歌ってみたいと回答した学習者の人数

聴取曲	N	はい (%)
①世界の民謡「O sole mio」	399	32(8.0)
②旧共通教材「椰子の実」	410	44(10.7)
③英語のポピュラーソング「The Sound of Silence」	403	153(38.0)
④合唱曲「春に」	395	119(30.1)
⑤日本民謡「かりぼし切り歌」	402	24(6.0)
⑥日本のポピュラーソング「世界に一つだけの花」	404	261(64.6)
⑦芸術歌曲「菩提樹」	390	15(3.8)

(5:非常に好き - 1:非常に嫌い)

(2) 学習者の聴取曲に対する好みの音楽的要因

聴取曲に対する好みの音楽的要因について、音楽の諸要素に関する9対の5段階評定尺度によって評定させ、平均値を算出した。各項目の最大平均値と最小平均値の差を指標として検討した(表3.3)。聴取曲の最大平均値と最小平均値との差が顕著に大きかった項目は、「項目2:リズムが面白いから」(最大平均値:3.97、最小平均値:2.28、差:1.69)、「項目3:メロディーがよいから」(最大平均値:4.26、最小平均値:2.28、差:1.98)、「項目4:歌詞がよいから」(最大平均値:4.36、最小平均値:2.28、差:2.08)、「項目6:伴奏がよいから」(最大平均値:3.93、最小平均値:2.67、差:1.26)の4項目であった。このことから、学習者は、初めて提示された曲を聴取する際に、リズム、メロディー、伴奏といった要素を中心に聴き取って、歌唱曲に対する好みを決定していると思われる。

最大平均値と最小平均値の差が小さかった項目は、「項目7:音の強弱」(最大平均値:3.57、最小平均値3.11、差:0.46)であったことから、学習者が提示された曲に対する好みを決定する際には、音の強弱は直接的には影響を与えにくいと思われる。また「項目7:音の強弱」と「項目1:発声」では、好みの平均値が低かったジャンルである⑤日本民謡と⑥芸術歌曲において、他の項目よりも平均値が高かった。坂田(1999)は、Worport, R.(1990)が行った、音楽的訓練を受けた聴取者と受けていない聴取者の間に知覚上の相違があるかどうかを調べるための一連の実験を取り上げ、あるジャンルに精通していない被験者は、その音楽を聴取する際に期待が生じにくく、音楽の流れよりも楽器の音色の方が記憶に残りやすいことを指摘している<sup>5)</sup>。このことから考察すると、中学生は普段、日本民謡や芸術音楽といったジャンルの歌唱曲に触れる機会に乏しく、耳慣れていないために、音楽の流れそのものよりも、こぶしの入った民謡独特の発声や芸術音楽における男声歌手のベルカントの発声などの音色に対して、他の要素よりも敏感に反応したと考えられる。また同様に、音の強弱といった音響的な効果にも学習者は敏感に反応したのではないかと思われる。

5) 坂田薫子「クラシック音楽における聴取の技術－演奏活動と鑑賞活動を支える基礎能力の育成をめぐる」『音楽教育の研究－理論と実践の統一をめざして－』音楽之友社、1999、pp.178-179.

表3.3 聴取曲に対する好みの音楽的要因に関する項目の平均値

聴取曲	項目1	項目2	項目3	項目4	項目5	項目6	項目7	項目8	項目9
①世界の民謡	3.41	2.98	3.05	2.61	2.84	3.22	3.57	3.12	2.62
②旧共通教材	3.24	2.61	2.81	2.83	2.73	3.07	3.27	2.98	2.32
③英語のポピュラーソング	3.65	3.66	3.85	3.19	3.84	3.66	3.15	3.24	3.00
④合唱曲	3.69	2.99	3.43	3.21	3.81	3.34	3.46	3.20	2.69
⑤日本民謡	2.96	2.38	2.28	2.28	2.40	2.67	3.11	2.65	2.06
⑥日本のポピュラーソング	3.98	3.97	4.26	4.36	3.75	3.93	3.50	3.66	3.39
⑦芸術歌曲	3.02	2.28	2.43	2.43	2.65	3.01	3.13	2.64	2.20
全曲の平均値	3.42	2.98	3.16	2.99	3.15	3.27	3.31	3.07	2.61

(     : 全曲の平均値以上の数値)

(3) 学習者の聴取曲に対する印象

「聴取曲に対する印象の因子」の平均値を算出した結果を以下に示す(表3.4)。好みの水準が高かった、⑥日本語のポピュラーソング、③英語のポピュラーソング、④合唱曲、の3つのジャンルは、親和性の因子と明暗性の因子の平均値が、全曲の平均値を上回ったが、難易性の因子の平均値では全曲の平均値を下回った。好みの水準が中程度であった、①世界の民謡は、力動性の因子、明暗性の因子、および難易性の因子の平均値が、全曲の平均値を上回った。②旧共通教材は、全ての因子の平均値が全曲の平均値を下回った。また、この2ジャンルの親和性の因子の平均値は、ともに全曲の平均値をやや下回った。このことから、学習者は、これらの2ジャンルに対してややなじみにくいといった印象を抱いていることがわかる。一方、好みの水準の低かった、⑦芸術歌曲と⑤日本民謡の2ジャンルは、力動性の因子、親和性の因子、および明暗性の因子の各平均値がかなり低かった。一方、難易性の因子の平均値は全曲の平均値を上回った。このことから、学習者はこのジャンルに対して馴染みにくさと複雑さを感じているといえる。したがって、学習者は芸術歌曲と日本民謡の2ジャンルに対して消極的な印象を抱きやすく、それが音楽に対する好みに少なからず影響を与えていると思われる。

表3.4 聴取曲に対する印象の因子の平均値

聴取曲	第I因子(力動性)	第II因子(親和性)	第III因子(明暗性)	第IV因子(難易性)
①世界の民謡	3.04	2.59	2.94	3.62
②旧共通教材	2.43	2.55	2.48	3.07
③英語のポピュラーソング	2.63	3.48	3.15	2.92
④合唱曲	2.50	2.90	3.01	2.86
⑤日本民謡	2.56	2.13	2.19	3.76
⑥日本のポピュラーソング	2.90	3.92	4.13	2.34
⑦芸術歌曲	2.30	2.17	2.11	3.54
全曲の平均値	2.62	2.82	2.85	3.14

(     : 全曲の平均値以上の数値)

3. 授業で積極的に歌っている学習者と積極的に歌っていない学習者の聴取曲に対する好み

授業で積極的に歌っている学習者と歌っていない学習者ごとに聴取曲に対する好みの平均値を算出し、t検定を行った結果を以下に示す(表4)。③英語のポピュラーソング、④合唱曲、⑥日本のポピュラーソングは、授業で積極的に歌っている学習者の好みの平均値が、積極的に歌っていない学習者の好みの平均値よりも有意に高かった。①世界の民謡と②旧共通教材は、積極的に歌っていない学習者の好みの平均値が、積極的に歌っている学習者の好みの平均値よりも有意に低かった。⑤日本民謡と⑦芸術歌曲は、積極的に歌っている学習者と歌っていない学習者との間に有意な差は見られず、ともに好みの平均値が低かった。以上の結果から、授業で積極的に歌う学習者の方が、歌っていない学習者よりも、幅広いジャンルの歌唱曲を肯定的に受容する傾向があるといえる。

表4 授業で積極的に歌っている学習者と歌っていない学習者の聴取曲に対する好みの平均値

表4.1 ①世界の民謡「O sole mio」

	N	M (SD)
歌っている学習者	256	2.83 (1.15)
歌っていない学習者	135	2.53 (1.07)
平均値の差	—	0.30*

(5:非常に好き-1:非常に嫌い) \* $p < 0.05$

表4.2 ②旧共通教材「椰子の実」

	N	M (SD)
歌っている学習者	262	2.70 (1.03)
歌っていない学習者	139	2.38 (1.01)
平均値の差	—	0.32**

(5:非常に好き-1:非常に嫌い) \*\* $p < 0.01$

表4.3 ③英語のポピュラーソング「The Sound of Silence」

	N	M (SD)
歌っている学習者	256	3.78 (1.00)
歌っていない学習者	138	3.45 (1.06)
平均値の差	—	0.33**

(5:非常に好き-1:非常に嫌い) \*\* $p < 0.01$

表4.4 ④合唱曲「春に」

	N	M (SD)
歌っている学習者	255	3.30 (1.08)
歌っていない学習者	131	2.73 (1.10)
平均値の差	—	0.57**

(5:非常に好き-1:非常に嫌い) \*\* $p < 0.01$

表4.5 ⑤日本民謡「かりぼし切り歌」

	N	M (SD)
歌っている学習者	258	2.12 (0.99)
歌っていない学習者	136	1.97 (0.97)
平均値の差	—	0.15

(5:非常に好き-1:非常に嫌い)

表4.6 ⑥日本のポピュラーソング「世界に一つだけの花」

	N	M (SD)
歌っている学習者	260	4.25 (0.95)
歌っていない学習者	135	3.80 (1.14)
平均値の差	—	0.45**

(5:非常に好き-1:非常に嫌い) \*\* $p < 0.01$

表4.7 ⑦芸術歌曲「菩提樹」

	N	M (SD)
歌っている学習者	251	2.25 (0.94)
歌っていない学習者	130	2.06 (0.94)
平均値の差	—	0.19

(5:非常に好き-1:非常に嫌い)

#### IV. 考察

本調査の知見から、教科書に掲載されている歌唱曲のジャンルは、歌唱曲に対する学習者の受容の水準が高いジャンル、受容の水準が中程度のジャンル、受容の水準が低いジャンルに分かれることが明らかになった。教師は、この学習者の受容の実態とその傾向を踏まえながら、効果的な教材選択を行っていく必要がある。また、学習指導上、学習者の受容の水準が低いと思われるジャンルの歌唱曲を取り扱う場合には、より綿密な指導方略を練る必要がある。7ジャンルの歌唱曲に対する好みの調査と、歌唱曲に対する印象の因子分析の結果、具体的な方略として、以下のことが有効である。

##### (1) 鑑賞活動との関連を図った学習活動

聴取経験のある曲に対する学習者の好みや親和性は、やや高めである傾向にある。したがって、学習者が触れる機会の少ないジャンルの歌唱曲を取り扱うにあたっては、まず、関連する鑑賞教材などを用いて、そのジャンルに対する親和性を高めることが有効であると考えられる。その際、音楽を形作っている特徴などに関する知識を学習者に教示することで、歌唱曲に対する肯定的な態度へと変えていくことも重要であろう。

##### (2) 学習者が感受しやすい音楽の諸要素を活かした学習活動

受容の水準が低いジャンルが提示された際に、学習者は、歌唱曲の発声や強弱、力動性などを感受しやすい傾向にある。したがって、学習者が感受しやすいこれらの曲の特徴を感じ取らせる活動を導入して学

習を展開させていくことも有効であろう。

しかしながら歌唱活動に対する学習者の態度と意欲の要因に関する因子分析の結果から、授業において積極的に歌っている学習者の方が、積極的に歌っていない学習者よりも、より幅広いジャンルの歌唱曲を肯定的に受容することが明らかになった。このことから、まず、学習者の歌唱活動に対する意欲を高めていくことが根本的に重要であると考えられる。したがって、学習者の歌唱活動に対する気分・感情を高めることのできる教材を選択することが重要であろう。特に、歌唱活動への関心・意欲・態度が確立されていない段階では、学習者の受容の水準が高い日本のポピュラーソング、英語のポピュラーソング、および合唱曲の3ジャンルから教材を選択するとよいであろう。また、学習者が好む曲の傾向である、「親和性」と「明暗性」が高く、「力動性」が中程度で、かつ「難易性」が低い歌唱曲を選択するとよいと思われる。しかし、よりよい歌唱活動を展開するためには、教材選択の工夫と同時に、学習者の歌唱活動に関する悩みを取り除く指導を積極的・継続的に行っていくことも必要であろう。

今後の音楽科では、少ない授業時数の中で、歌唱活動を展開するにあたり、学習者の歌う意欲を高めることを重視した歌唱教材と、表現の多様性の感受を重視した歌唱教材を、いかにバランスよく選択していくかが課題といえよう。実際に、協力校の教師の話から、多くの歌唱教材を取り上げたいが、授業時数の少ない中で、他の領域との均衡を保とうとすると、曲数やジャンルが限定されてしまうとのことである。したがって、今後は、より実地的な歌唱教材選択の視点を切り開いていく必要があると考える。歌唱教材選択の発展的な研究として、①ジャンルや曲の要素を限定して、より詳細に歌唱教材に対する学習者の音楽の好みを検討する研究や、②プリテスト、ポストテストによって、授業でどのような曲を取り扱おうと学習者の受容の水準に好ましい影響を及ぼすかを検討する研究があげられよう。

## 付記

最後に、ご多忙の中、質問紙および聴取調査への協力を快諾して下さるとともに、有益なご助言を頂きました協力校の諸先生方、そして生徒の皆さんに感謝の意を申し上げます。



資料

質問紙1

質問紙1：音楽の授業における歌唱活動に関する質問紙

(1) あなたの学年、出席番号を記入し、当てはまる性別に○をして下さい。  
 学年 ( ) 出席番号 ( ) 性別 ( 男 / 女 )

(2) あなたは、今まで小・中学校の授業以外で、音楽の習いごとや音楽活動を行った経験がありますか？当てはまるものに○をして下さい。  
 ( はい / いいえ )

(3) (2)で「はい」と答えた人にお尋ねします。音楽活動の内容について、当てはまるものに○をして下さい。(複数回答可)

①学校の音楽系の部活動 ②児童合唱 ③ピアノ  
 ④音楽部 ⑤弦楽部 ⑥その他 ( )

質問1：中学校の音楽の授業での歌唱・合唱活動についてお聞きします。どの質問についても思った通りに答えて下さい。

(1) あなたは、ふだんの授業で歌うときに、積極的に歌いますか？「はい・いいえ」のどちらか近い方に○をつけて下さい。  
 ( はい / いいえ )

(2) その理由として、当てはまる番号に○をつけて下さい。

	非常に	やや	えとど なも い	ど も も や	非常に	
1. 歌うのが好きだから	5	4	3	2	1	歌うのが嫌いだから
2. 楽しいから	5	4	3	2	1	つまらないから
3. 勉強になるから	5	4	3	2	1	勉強にならないから
4. 自分の声に自信があるから	5	4	3	2	1	自分の声に自信がないから
5. 歌い方(声の出し方)がわかるようになるから	5	4	3	2	1	歌い方(声の出し方)がわからないから
6. みんなが歌っているから	5	4	3	2	1	みんなが歌わないから
7. 気分がすっきりするから	5	4	3	2	1	気分が重くなるから
8. 歌いやすい雰囲気だから	5	4	3	2	1	歌いにくい雰囲気だから
9. 歌う曲はどんなに高い音(高い音)でも声が出るから	5	4	3	2	1	歌う曲の音が低くて(低くて)声が出ないから
10. 歌がうまくなりたいたいから	5	4	3	2	1	歌がうまくなりたいたとは思わないから
11. ふだんの声と同じ声で歌えるから	5	4	3	2	1	ふだんの声と違う歌声になるから
12. 人前で歌うのは平気だから	5	4	3	2	1	人前で歌うのは恥ずかしいから
13. みんなで歌うのは好きだから	5	4	3	2	1	みんなで歌うのは嫌いだから
14. 感動できるから	5	4	3	2	1	感動できないから

このページの回答が終わったら、次のページに進んでください

質問紙2

質問：先ほど(曲目)聞いた曲についてお聞きします。

(1) この曲を小・中学校の授業で聞いたことがありますか？ ( はい / いいえ )

(2) この曲を授業以外で聞いたことがありますか？ ( はい / いいえ )

この曲を小・中学校の授業で歌ったことがありますか？ ( はい / いいえ )

この曲を授業以外で歌ったことがありますか？ ( はい / いいえ )

(5) この曲は好きですか、嫌いですか？当てはまる番号に○をしてください。

	非常に	やや	えとど なも い	ど も も や	非常に	
好き	5	4	3	2	1	嫌い

(6) 質問(5)で答えた具体的な理由について、当てはまる番号に○をしてください。

	非常に	やや	えとど なも い	ど も も や	非常に	
1. 声の出し方(発声)がよいから	5	4	3	2	1	声の出し方がよくないから
2. リズムが面白いから	5	4	3	2	1	リズムがつまらないから
3. メロディーがよいから	5	4	3	2	1	メロディーがよくないから
4. 歌詞がよいから	5	4	3	2	1	歌詞がよくないから
5. ハーモニー(ハモリ)がよいから	5	4	3	2	1	ハーモニー(ハモリ)がよくないから
6. 伴奏がよいから	5	4	3	2	1	伴奏がよくないから
7. 音の強弱があるから	5	4	3	2	1	音の強弱がないから
8. 展開だから	5	4	3	2	1	展開だから
9. テンポが遅いから	5	4	3	2	1	テンポが遅いから

(7) この曲を音楽の授業で歌ってみたいですか？「はい」か「いいえ」のどちらか近い方に○をつけて下さい。  
 ( はい / いいえ )

(8) この曲の印象やイメージについて、当てはまる番号1つに○をして下さい。

	非常に	やや	えとど なも い	ど も も や	非常に	
1. 晴い	5	4	3	2	1	明るい
2. 急いだ	5	4	3	2	1	ゆっくりした
3. あらっばい	5	4	3	2	1	おとなしい
4. やさしい	5	4	3	2	1	難しい
5. さわがしい	5	4	3	2	1	静かな
6. おもしろい	5	4	3	2	1	つまらない
7. はやい	5	4	3	2	1	おそい
8. かっこいい	5	4	3	2	1	かっこわるい
9. 親しみやすい	5	4	3	2	1	親しみにくい
10. 複雑な	5	4	3	2	1	簡単な
11. ふつうの	5	4	3	2	1	変な
12. 古い	5	4	3	2	1	新しい
13. 悲しい	5	4	3	2	1	楽しい
14. 力強い	5	4	3	2	1	弱々しい

これですべての質問は終わりです。ご協力本当にありがとうございました。